
屍は動かない

妖精

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

屍は動かない

【Nコード】

N9594X

【作者名】

妖精

【あらすじ】

ある日、13歳の少年は不運な交通事故により命を落としてしまった……………すると、どこからか声がして

死んでみて

（変わらない町　変わらない人　変わらない　変わらない　変わらない）

そう思つて何回目だろうか？僕は死んだ……死とは突然やつて来て……いきなり僕の命を奪つていった……初めは普通だと思つた

「人が死ぬのは当たり前だ！そんなことは誰でも思ふことだ」

そんなことを言つて……ただ意気がつて、弱さを見せないようにしてただけだ……人は生まれた時から天涯孤独な生き物……

……僕の葬式の用に皆初めは涙を流した……そう初めだけ……悲しいふりをしているだけだ……死とは

つまらない……何もなくなつた……呆然としている……

……そうやって僕はまた眠る……薄暗い闇の中で……

声、そして（前書き）

続き二話目

声、そして

（助けてください）

どこからともなく聴こえてくる声で僕はまた目を覚ます

（助け……て………くだ………さ……い……）

段々と聴こえなくなつて、薄れまた目を閉じようとした時

（助けてください！！！！）

その強い言葉と目の前の激しい光に僕は目を覚ましさらには目を疑う

「君は………だれ？」

そう言うしかなかったいきなり現れた美女…全身が白色で瞳は藍色で羽が生えているそれはもう天使と言うしかなくその天使は光と同時にやってきて指を刺しこう言つた

「貴方は第二の人生を全うしなさい！」

そう言つて消えていった

（第二の………人生……？）

腑に落ちないなぜ天使は僕の元に現れたのだろうか僕は生まれるべきではないのに天使はその事を知らないのだろうか？

「バカバカしい」

そう言つてまた目を閉じる

目が覚めると………

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9594x/>

屍は動かない

2011年11月13日09時06分発行